

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社 MARU International

研修事業の名称 MARU International 介護初任者研修

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス（居宅・施設） ・介護保険外サービス <p>【演習内容】</p> <p>視聴教材を利用して、介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する</p>
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な現場におけるサービスの内容やそれぞれの仕事内容を理解する。 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種・介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <p>【演習内容】</p> <p>各種介護サービスについて視覚教材を活用し、介護職の業務の理解を深める</p>
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法

①人権と尊厳を支える介護	5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)人権と尊重の保持 ○「個人として尊重 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2)ICF ○介護分野における ICF</p> <p>(3)QOL ○QOL の考え方 ○生活の質</p> <p>(4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5)虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法○高齢者の養護支援</p> <p>(6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業</p> <p>【演習内容】 事例を理解し、介護職利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることが理解できるようにグループワークを行う</p>
②自立に向けた介護	4 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)自立支援 ○自立・自立支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性/個別ケア ○重度化防止</p> <p>(2)介護予防 ○介護予防の考え方</p> <p>【演習内容】 自立支援・介護予防の考えに基づいたケアを、事例を使用してグループワークで学ぶ</p>
合計	9	

3 介護の基本 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い ○地域包括ケアの方向性</p> <p>(2)介護の専門性 ○重度化防止 ○遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○自立した生活を支えるための援助 ○根拠のある介護 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種から成るチーム</p> <p>(3)介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担</p> <p>【演習内容】 介護職に求められる専門性の特質について討議する</p>
②介護職の職業倫理	1.5時間	<p>【講義内容】</p> <p>○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理(社会福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重</p> <p>【演習内容】 職業倫理に関わる講師の体験例の紹介後、受講生の倫理観の変化について省察する</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ○リスクとハザード</p> <p>(2)事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等) ○情報の共有</p> <p>(3)感染対策 ○感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断) ○「感染」に対する正しい知識</p> <p>【演習内容】 ヒヤリハットレポートの書き方</p>

④介護職の安全	1.5時間	<p>【講義内容】 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響 ○ストレスマネジメント ○腰痛の予防に関する知識 ○手洗い・うがいの励行 ○手洗いの基本 ○感染症対策</p> <p>【演習内容】 手洗い、うがいの方法をシュミレーションする</p>
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	2 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(2)仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順</p> <p>(3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担 ○指定介護サービス事業者の指定</p> <p>【演習内容】 制度に関わる基本的な用語について知識の確認をする</p>
②医療との連携とリハビリテーション	4 時間	<p>【講義内容】</p> <p>○医行為と介護 ○訪問介護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念</p> <p>【演習内容】 医行為であるか問われる具体例を示し、判断基準を示す</p>
③障害福祉制度およびその他制度	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)障害福祉制度の理念 ○障害の概念 ○ICF(国際生活機能分類)</p> <p>(2)障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業</p>
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答</p> <p>(2)コミュニケーションの技法、道具を用いた 言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(3)利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障害に応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>【演習内容】 ロールプレイを通して学習し、利用者の抱く感情や気持ちの理解を図る</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1)記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ○介護に関する記録の種類 ○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等) ○ヒヤリハット報告書 ○5W1H</p> <p>(2)報告 ○報告の留意点 ○連絡の留意点 ○相談の留意点</p> <p>(3)コミュニケーションを促す環境 ○会議 ○情報共有の場 ○役割の認識の場(利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼) ○ケアカンファレンスの重要性</p> <p>【演習内容】 実際に介護記録を記入する</p>
合計	6	
6 老化の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法

①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化 ○喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響 ○咀嚼機能の低下 ○筋、骨、関節の変化 ○体温維持機能の変化 ○精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>【演習内容】</p> <p>身体機能が低下している状態を体験し、機能の変化を理解する</p>
②高齢者と健康	3時間	<p>【講義内容】</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折 ○筋力の低下と動き ○姿勢の変化 ○関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ○循環器障害の危険因子と対策 ○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、訴えの多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ○誤嚥性肺炎 ○症状の小さな変化に気付く視点 ○高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>【演習内容】</p> <p>体温計測・脈拍の計測</p>
合計	6	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1.5時間	【講義内容】 (1) 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア ○認知所ケアの視点(できることに着目する)
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	【講義内容】 (1) 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義 ○物忘れとの違い ○せん妄の症状 ○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア) ○治療 ○薬物療法 ○認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5時間	【講義内容】 (1) 認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ○認知症の中核症状 ○認知症の行動、心理症状(BPSD) ○不適切なケア ○生活環境で改善 (2) 認知症利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけない ○相手の世界にあわせる ○失敗しないような状況を作る ○すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ○身体を通じたコミュニケーション ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ○認知症の進行に合わせたケア 【演習内容】 事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する
④家族への支援	1.5時間	【講義内容】 (1) 認知症の受容過程での援助 (2) 介護負担の軽減(家族のレスパイトケア)
合計	6	
8 障害の理解 (3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1時間	【講義内容】 (1) 障害の概念と ICF ○ICF の分類と医学的分類 ○ICF の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念

<p>②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識</p>	<p>1 時間</p>	<p>【講義内容】 (1)身体障害 ○視覚障害 ○聴覚・平衡障害 ○音声、言語、咀嚼障害 ○肢体不自由 ○内部障害 (2)知的障害 ○知的障害 (3)精神障害(高次脳機能障害、発達障害を含む) ○統合失調症、気分(感情障害)、依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)その他の心身の機能障害</p>
<p>③家族の心理、かかり支援の理解</p>	<p>1 時間</p>	<p>【講義内容】 (1)家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援 ○介護負担の軽減 【演習内容】 事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う</p>
<p>合計</p>	<p>3</p>	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3時間	【講義内容】 (1)理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) (2)法的根拠に基づく介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4時間	【講義内容】 (1)学習と記憶の基礎知識 (2)感情と意欲の基礎知識 (3)自己概念と生きがい (4)老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 (5)こころの持ち方が行動に与える影響 (6)からだの状態がこころに与える影響
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3時間	【講義内容】 (1)人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 (2)骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 (3)中枢神経と体性神経に関する基礎知識 (4)自律神経と内部器官に関する基礎知識 (5)こころとからだを一体的に捉える (6)利用者の様子の普段との違いに気付く視点 【演習内容】 バイタルサインチェック(体温・脈拍・呼吸・血圧の測定)
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	8時間	【講義内容】 (1)家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴 ○自立支援 ○予防的な対応 ○主体性、能動性を引き出す ○多様な生活習慣 ○価値観 【演習内容】 料理援助に関して、模擬事例を用いグループ演習を通して東り援助の計画を作成し報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し理解を図る。
	⑤快適な居住環境整備と介護	6時間	【講義内容】 (1)快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与 【演習内容】 実際に福祉用具を使用し、体感してみる

<p>⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4時間</p>	<p>【講義内容】 (1)整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身支度 ○整容行動 ○洗面の意義・効果</p> <p>【演習内容】 ○DVD を活用し、整容支援技術(洗顔、目、鼻腔、耳爪の清潔法、髭剃り)の理解を深める ○片麻痺、ベッド上で全介助等の状態を想定し、実際に着衣着脱の援助を行う ○洗面、整髪、爪の手入れ</p>
<p>⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7時間</p>	<p>【講義内容】 (1)移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○残存能力の活用、自立支援 ○重心、重力の動きの理解 ○ボディメカニクスの基本原則 ○移乗介助の具体的な方法(車椅子への移乗の具体的な方法、全介助でのベッド・車椅子間の移乗、全面介助での車椅子・洋式トイレ・ポータブルトイレ間の移乗) ○移動介助(車椅子・歩行器・杖等) ○褥瘡予防</p> <p>【演習内容】 ○安楽な体位の工夫 ○体位変換、移動介助(臥位、起居動作、座位、立位) ○車椅子⇄ベッド、ベッド⇄ポータブルトイレ、車椅子⇄洋式トイレの移乗動作 ○ボディメカニクスの活用と体位変換 ○肢体不自由者、視覚障害者の歩行介助 ○転倒予防体操を体験する</p>
<p>⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>【講義内容】 (1)食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>○食事をする意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼、嚥下のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備(時間・場所等) ○食事に関する福祉用具の活用と解除方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性肺炎の予防</p> <p>【演習内容】 ○口腔ケアの方法 ○食事介助(姿勢・摂食体験)</p>

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8時間</p>	<p>【講義内容】</p> <p>(1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>○羞恥心や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)</p> <p>○目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ○陰部洗浄(臥床状態での方法) ○足浴、手浴、洗髪</p> <p>【演習内容】</p> <p>(1)グループ単位で実施</p> <p>○入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する ○浴槽を準備し、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用方法、利用者への接し方の実践練習を行う ○全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技をし、実践練習を行う ○目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ ○受講生に洗髪モデルを選任し、洗髪する ○ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ ○羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ ○受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる</p>
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義内容】</p> <p>(1)排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>○排泄とは ○プライド、羞恥心 ○プライバシーの確保</p> <p>○おむつ使用の弊害 ○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響</p> <p>○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法 ○便秘の予防</p> <p>【演習内容】</p> <p>○プライバシーの保護 ○自立を支援する介助 ○排泄関連用具を使用した介助(ポータブルトイレ、尿器、紙おむつ等)</p> <p>○おむつ交換の実践 ○ベッド上排泄の解除の方法</p>

	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	【講義内容】 (1)睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備(温度や湿度、光、音など) ○安楽な姿勢 ○褥瘡予防 【演習内容】 ○ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ、安楽な姿勢・褥瘡予防を実際に行う ○ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ ○ベッドメイキング方法を学ぶ ○受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	4時間	【講義内容】 (1)終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは ○高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死) ○臨終が近づいた時の兆候と介護 ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性 【演習内容】 ○講師が示す事例
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	5時間	【講義内容】 (1)介護過程の目的・意義・展開 (2)介護過程とチームアプローチ 【演習内容】 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	⑭総合生活支援技術演習	5時間	【事例を基に演習】 (1)要介護者・介護家族への援助(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) (2)要支援者への支援(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) 【演習】 1事例2.5時間程度で実施する
実習		0時間	
	合計	75	
10 振り返り (4時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法

①振り返り	2時間	【講義内容】 (1)研修を通して学んだことや理解したことを再確認する ○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶこと ○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 【演習内容】 ○グループディスカッションを通して、今後のキャリア形成について見通しを持つ
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	【講義内容】 (1)事業所における事例を学ぶ ○継続的に学ぶこと ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(OFF-JT、OJT)を紹介 【演習内容】 研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例紹介
合計	4	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。